

部 報 第 1 2 1 号

平成 1 9 年 3 月 2 7 日
(財)全国高体連卓球専門部

【平成 1 8 年度 (財)全国高体連卓球専門部第 3 回理事会議事録】

日 時：平成 1 9 年 3 月 2 5 日 (日) 1 6 : 0 0 ~

会 場：金沢市総合体育館会議室

1 あいさつ

(財)全国高等学校体育連盟卓球専門部長

後藤 泰之

石川県高等学校体育連盟卓球専門部長

向 孝志

2 協議事項

第 1 号議案

次年度事業計画案承認の件

ア 平成 1 9 年度第 7 6 回全国高等学校総合体育大会 (佐賀大会) 中島委員長

- ・いろいろご意見をいただきタイムテーブルを変更したため、競技日程が変わった。
- ・参加定数をもう一度確認後、大会要項の印刷に入りたい。
- ・データファイルのやりとりを大阪大会ではFDを使用して行ったが、今回は電子メールでの送信をお願いしたい。
- ・プログラム編成会議の集合時間を14:00から13:30に変更したい。
- ・佐賀大会全国高体連専門部役員案
- ・推薦数など参加の総枠数が決まっていないため、タイムテーブルに空きを設けて余裕をもたせてある。(中村審判長)
- ・「学校対抗の部」公開抽選会改正案 (小坂副理事長)
- 「 1 原則(6)の 」は 2 チーム目以降のシード順を下げて反対ゾーンに配置する。

承認

イ 平成 1 9 年度第 3 5 回全国高等学校選抜卓球大会 (東京大会) 井原委員長

- ・競技日程で第 2 日のシングルスは9:00から開始したい。
- ・外国籍選手のシングルス(2部)への出場は(財)全国高体連の規定により認めないことを「 8 参加資格(7)」に明記した。承認

ウ その他

若尾理事長

- ・平成 1 9 年度事業・会議予定表、平成 2 0 年度以降の大会開催地予定新規のものが高校・大学合同練習会をはじめ 3 つある。
- ・講習会、強化合宿、海外遠征等 (丸田技術委員会委員長)
- 4/14(土), 15(日).....高校・大学合同練習会(大正大学)、選手男女 6 名(新規)
- 7 月上旬 ~ 中旬.....海外遠征事業(ニュージーランド)、選手男女 4 名
- 8/22(水) ~ 29(木).....日・韓・中高校生交流(中国・桂林)、選手男女 5 名
- 11/5(月) ~ 10(土).....日・韓ジュニア交流(山梨)、選手男女 7 名
- 11/20(火) ~ 25(日).....日・韓ジュニア交流(韓国)、選手男女 7 名
- 1/4(金) ~ 7(月).....冬季強化合宿(滋賀・大津)、選手男女 4 0 名
- 1/5(土), 6(日).....指導者講習会(滋賀・大津)
- 2 月中旬.....日中友好合宿・指導者研修会(中国)
- 3 月下旬.....春季合宿、選手男女 2 4 名
- 日・韓・中高校生交流大会は日本体育協会負担であるが、集散旅費は出ない。例年通りスタッフの集散旅費については卓球専門部で負担をする。承認

第 2 号議案

平成 1 9 年度収支予算案承認の件

関川会計理事

承認

第 3 号議案

委員会・事務局提案承認の件

ア 平成20年度全国高校総体参加定数 坂部事務局長
・学校対抗の増加分について最後の1枠を決めるとき加盟校数が同じ場合は、個人登録数の多い方とする。 承認

イ 選抜大会の定数改正について 小坂副理事長
改正基本方針

<学校対抗>

1 大会のブロック予選通過数(略称、通過数)については恒久的なものではなく、現状に応じて見直しをすることが妥当であること。(加盟校数の増減、個人登録数の増減に対応すべきものであると考える。)

2 各ブロックの状況が一定ではないことから、差異を考慮した通過数であること。

3 通過数案
ブロック構成の県数による基本配分……………15校
加盟校数配分(加盟校数に応じて比例配分)……15校
登録人数配分(登録人数に応じて比例配分)……15校
強度枠配分(前年度選抜大会優勝、準優勝校)……2校
開催地枠……………1校 計男女各48校

<2部シングルス>

基本通過数……………94名(各都道府県47×2)

開催地通過枠………2名 計男女各96名

予選リーグ、決勝トーナメント方式をやめ、トーナメント方式とする。

詳細については今後検討していく。 承認

ウ 技術委員会 丸田副理事長
「第1号議案 ウ」で済み 承認

エ 年報編集委員会 初田副理事長
・各都道府県協力をしていただき、昨年より若干多めの注文数であった。 承認

オ IT委員会 小坂副理事長
・各都道府県委員長とメールで連絡を取り合いたい。 承認

第4号議案

人事案件承認の件(19年度は役員の改選期ではない) 若尾理事長
異動があればお知らせください。(今後事務局で調査)

3 報告事項

(財)全国高等学校体育連盟評議員会 若尾理事長
・留学生の掌握を卓球専門部のものをひな形にして各種目行っていく。

- ・広域通信制の問題
- ・全国総体宿泊に関する規定の遵守について
- ・財団法人として会計処理をしっかりと行っていかなければならない。

(財)日本卓球協会理事会・評議員会 若尾理事長

・全国総体シングルスベスト32の者の全日本選手権ジュニアの部に推薦出場が認められた。(最大16名)

・ニュージーランドジュニアオープンへの出場が認められた。

・国体の競技方法で19年度以降変更になる。

	1番	2番	3番	4番	5番
ABCチーム	A	B	C		C
XYZチーム	X	Y	Z	Z	

()()に相当する選手を誰にするかは、監督が2番目の試合が終了後に選手名を審判員に提出することで確定する。ただし、外国籍選手が出場する場合はCかZに出場する。

その他(臨時正副理事長会1/18・正副理事長事務局会議2/24) 若尾理事長

4 連絡事項

開催地実行委員会(平成18年度全国選抜石川大会) 稲垣委員長
事務局 坂部事務局長